

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化した場合や終末期のありかたについて、入居時に本人・家族と話し合いをもってはいるが、ホームとしてどこまで介護ができるかという共通のイメージやラインが明確になっていない。	ホームとして、どこまで介護ができるかというラインを明確にし、重度化した場合や終末期を迎えた場合に、医師の意見を聞き、本人・家族にとって納得のいく適切な対応がとれるようにする。	本人・家族にグループホームは終の住み家ではないということを理解してもらうため、基準や制度を明確にし、理解を得る。その上で、早めに特養などの施設の申し込みも検討してもらえるようにする。	6 か月
2	6	玄関に鍵をかけないケアができていない。	玄関に鍵をかけないケアができるようになる。	家族や地域の方にも協力をお願いし、玄関に鍵をかけない時間を作り、徐々に鍵をかけない時間を増やしていく。玄関のドアを開けると音が鳴るベルのようなものを設置し、利用者の行動をすばやく察知できるようにする。	12 か月
3	4	運営推進会議を活かす活動ができる。	運営推進会議を活かし、地域との交流をより深めることができる。	区長に相談し、区の取り組み活動で参加できそうなものにホームとして参加し、交流の機会をもつ。また、ホームとしての防災プランも示して、災害時には、協力を依頼できる関係作りをしていく。	12 か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。